芝浦工業大学建築学部建築学科
2022 年度卒業研究用

多様化を受け入れる複合施設

ースケートボードを通した異文化の交流ー

DZ19173 髙橋 龍平

Keywords
スケートボード　ストリートカルチャー　ダイバーシティ　スケートパーク　異文化交流

1. 背景

現在の世界、そして日本でもダイバーシティという言葉をよく聞くように多様化を受け入れようとしている動きがよく見られる。例えば LGBTQ や外国人問題、文化的な問題など様々である。しかし、本当に今の日本は多様化を受け入れられているのでしょうか。公園などで見られる~禁止の看板は多様化を受け入れる動きとはかけ離れているように感じます。今後も多くの文化、考え方が日本に入り込んで来ますが、その多様性を受け入れられる日本にしていくきっかけを生み出すのが私の設計の狙いである。

2 スケートボードと日本の関係

街中では多くのスケートボード禁止の看板が見られる。こちらも異文化を受け入れる訳ではなく、外部から入り込んできた文化を「悪」と捉え、マジョリティの人々が抹消しようとしている動きであり、ダイバーシティとは程遠い状態と言える。

2.1 理由

このような状態になっている理由は大きくわけて 2 つある。 1 つ目はマナーの悪いスケーターが器物損壊や事故などのトラブルを起こし、それによる一般人の偏見だ。事例としては、静岡県清水区在住の 30 代の男性が交通量の多い市道で車を追い越した際にサイドミラーを破損させたとして書類送検された。これに対して「スケーターは安全意識が低い」、「スケボーで道路に出るな」などの声が上がっている。また、山口県岩国市の錦帯橋でスケーターが橋板を傷つける事件があり、ニュースにも取り上げられた。 このような事件、事故がおおく、江東区では、スケートボードに乗っているだけでも通報をされてしまうほど一般人の偏見が高まってしまった。 2 つ目はスケートパーク不足である。多くの場所がスケートボード禁止区域に指定されていく中で、スケートパークはなかなか作られていない。この状態が続いていく中で、スケーターから「スケーターはどこでスケートボードを楽しめば良いのか。」との声も挙がっている。

また、スケートボードは東京オリンピックで正式種目にも指定され、堀米選手が金メダルを取るなどして、スケーターの人口はさらに多くなっており、スケートパーク不足はさらなる深刻化が予想される。

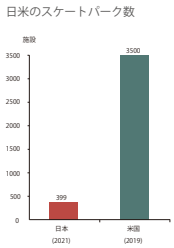


Fig. 1
日本と米国のスケートパーク数
(デトロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社より作成)

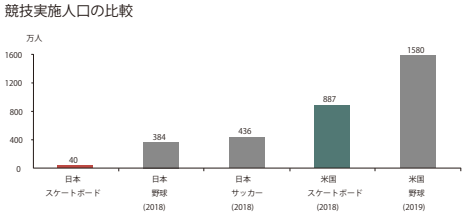


Fig. 2
日本と米国の競技人口の比較
(デトロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社より作成)

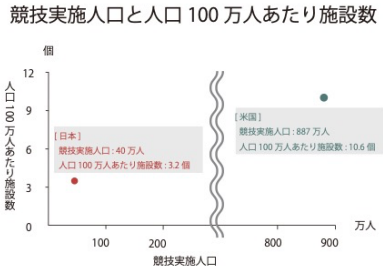


Fig. 3　競技人口と人口 100 万人あたりの施設数
(デトロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社より作成)

2.2 解決策

1 番単純な解決策はスケートパークを増やすことである。しかし、スケートボードはストリートカルチャーであり、その文化を楽しむことを目的としているスケーターも少なくない。ストリートカルチャーとしてのスケートボードを楽しむ人々は街の中で滑ることを目的としているので、た

とえスケートパークが作られたとしても街でスケートボードを楽しみ続けるのではないかと考える。そこで、擬似的なストリートカルチャーとしてのスケートボードを楽しむ空間を与えることが解決策の１つではないかと考える。

4.敷地選定

4.1 東京都北区赤羽

敷地は東京都赤羽を選定する。赤羽の特徴としては大きく分けて二種類ある。

一つ目は団地である。赤羽は横浜や吉祥寺などに並んで「住みたい街ランキング」の常連になりつつある。また、足立区、江東区について都内で３番目に団地が多いエリアである。現在では、団地の再開発化が進んでおり高所得者をターゲットにした高層マンションが増えてきている。

二つ目は「せんべろの街」である。意味は千円でベロベロになるという意味で、大学生や年配の方などが多くいる。

この二つの特徴は利用する人々の特徴も違い、文化の違いがうつよく現れる街である。

写真１　再開発化された団地（ヌーヴェル赤羽台団地）
（撮影者 Ibaraki101c）

写真２　せんべろの街
（https://naada2.com/akabane-senbero1/引用）

4. 詳細敷地

詳細敷地は赤羽駅から歩いて 20 分の場所に位置する桐ヶ丘中央商店街です。桐ヶ丘中央商店街の周りは赤羽駅周辺の団地とは違い、再開発化はされておらず、昔ながらの街並みが漂う。特に桐ヶ丘商店街は栄えていた当初の５０年以上前から 何も変わっておらず、より古い雰囲気を味わうことができる。

写真３　桐ヶ丘中央商店街
（https://papicocafe.blog.jp/44938738.html 引用）

5.設計計画

従来のスケートパークは塀やフェンスに囲まれており、スケーターとその他の人との関わりはほとんどなかった。また、そこで、スケーターとその他の人との繋がりを生ませるために柵のないスケートパークを提案する。

5.1 プログラム

・敷地面積：5000m2

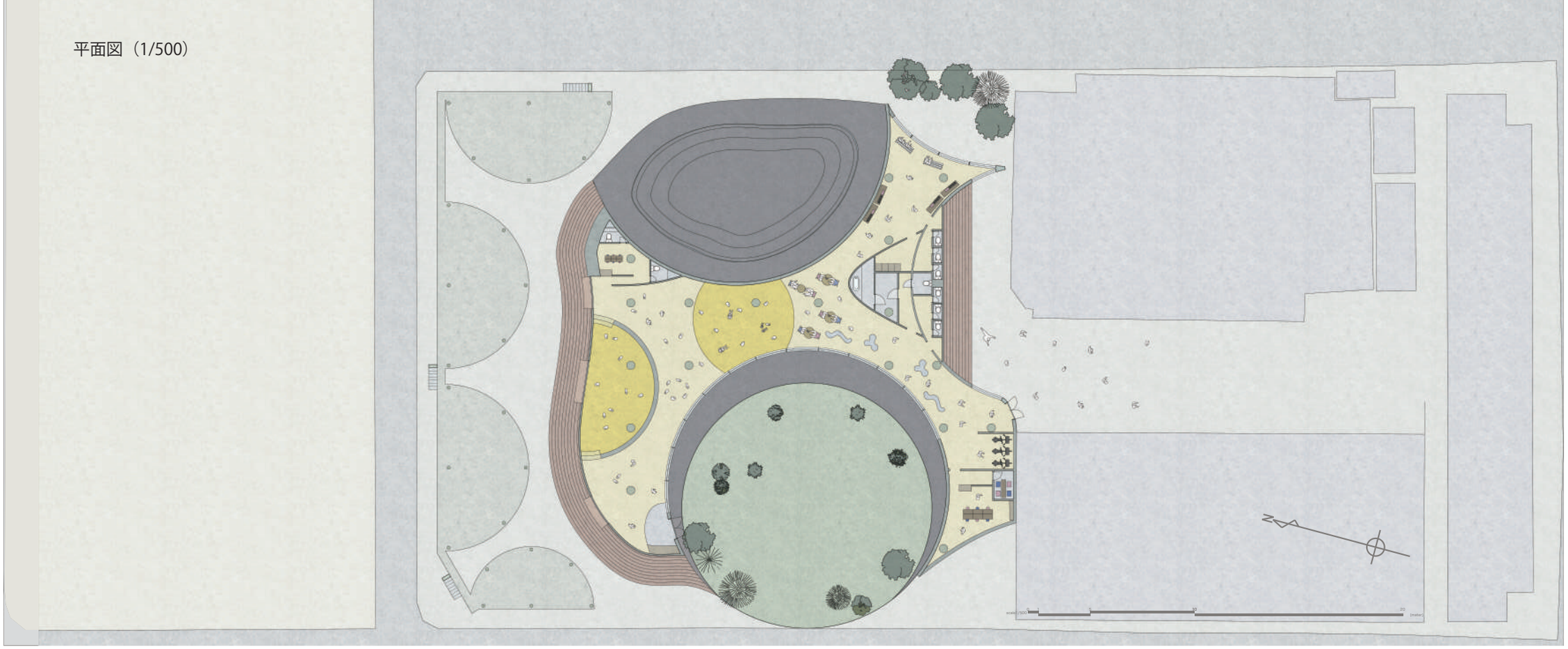
・設計物：スケートパーク、カフェ、町の図書館、デイサービス施設児童館

5.　参考文献や註など

・参考文献

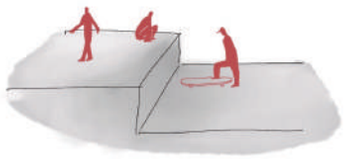
1) ニッポン戦後サブカルチャー史
2) 僕に居場所をくれたスケートボードが、これからの世界のためにできること。
3) https://news.yahoo.co.jp/byline/fuwaraizo/20200322-00168025
4) https://www.levistrauss.co.jp/about/history.html
5) https://media.thisisgallery.com/20223455
6) https://president.jp/articles/-/47535
7) https://www.udiscovermusic.jp/stories/90s-hip-hop

平面図（1/500）



ダイアグラム

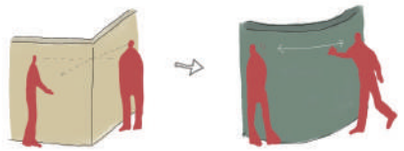
現在のスケートパークはフェンスで囲われているのがほとんどだが、ストリートカルチャーとしてのスケートボードは街中で楽しむのが本来の楽しみ方であり、現在のスケートパークとはかけ離れている。
そこで下の四つのダイアグラムを使い、柵のないスケートパークを設計する。

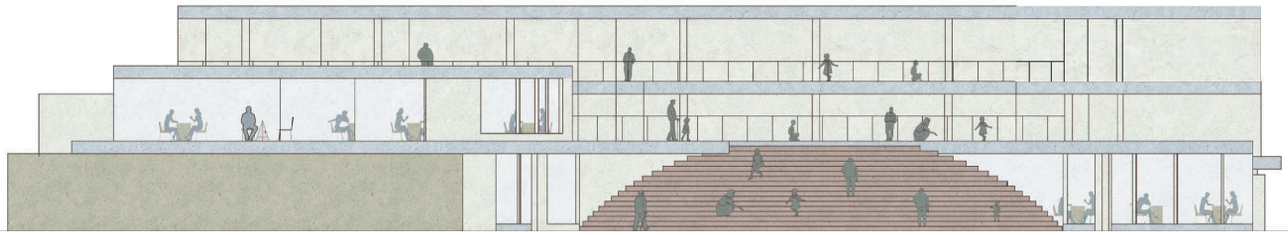


レベル差を利用した分割化

芝生などの素材を利用した分割化

建物の外壁を利用した分割化



外壁を円形にすることにより、スケーター、一般人の視界を開く

南側立面図（1/300）